

令和7年度（2025年度）大分大学学校推薦型選抜試験問題

出題の意図

小論文

（福祉健康科学部 社会福祉実践コース）

※この出題の意図についての質問・照会には一切応じません。

1 社会福祉の援助は一般に利他的なものとされるが、出典にあるように、利他的行為によって自己のニーズを充足する側面もある。このことの理解は、適切な援助姿勢や援助関係構築において重要な事柄となる。

本問題では、受験生の複眼的思考（全学APにおける多面的観点）を問うとともに、本学部アドミッション・ポリシーの「求める学生像」にある、「地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持つ人」に関して、自分の考えをまとめる論理的な思考力を問う。

2 超高齢社会を迎えたわが国では、増加する高齢者の介護が社会問題となっている。

図1からは、「主な介護者」には同居の配偶者、いわゆる老々介護が最も多いこと、同居の子・子の配偶者、別居の家族等にも介護の負担がかかっていることが読み取れる。その一方で、事業者が介護を担うことが増加している傾向も読み取れる。

図2からは、介護離職者のうちほとんどが女性であることが問題点として指摘できる。「要介護者」と「介護者」をとりまく問題は、福祉の専門職を志す者としても重要な課題である。

本問題では、こうした介護の現状と問題点を整理し、この問題を解決するためにはどうすればよいのか、自分の考えを論理的に述べる表現力を問う。